

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100978		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム 大洗 三の館		
所在地	〒311-1311 茨城県東茨城郡大洗町大貫町 2922-1		
自己評価作成日	令和 5年 9月26日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=0873100978-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和6年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心できる生活ができるように 1人ひとりの個性を大切にして 利用者様に寄り添い 楽しみのある生活が送れる様に努め 高齢になって 体力も低下されてきていることから 身体を動かせるように体操を行ったり 発声練習を中心に取り組んでいます 声を出す事や身体を動かす事が苦手な方もいますが 利用者が和みのある生活が送れる様に職員間で話し合い 支援に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路に面しているが、自然豊かな場所で道路を隔てて広大な田園を眺めながら四季を感じて過ごす事が出来、大洗海岸や溜沼も近くにある閑静な場所に立地している。職員は利用者が今迄と同じように「自分らしく生きる」事が出来るようにと理念に掲げ、利用者の行動制限をせずできる事はやって頂き、個別支援を見守りの中行い利用者は充実した日々を過ごしている。本部栄養士の献立による職員の手作りでのバランスや彩も良い食事や利用者の希望を取り入れたテイクアウトの食事でも利用者の楽しみになっている。運営母体が医療機関で有る事で健康管理や緊急時には24時間搬送体制が確立されている為、家族等や職員の安心に繋がっている。職員の勤続年数も長くコミュニケーションの取れた支援で、利用者は笑顔で明るく穏やかに過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を常に意識して 共有する事で 利用者が自分らしく生き生きとした生活が送れるように支援しています	事業所理念のほかに法人本部の「社訓とところがけ」があり、玄関に掲示するとともに内部研修のときに話し合いも行っている。利用者が自分らしく過ごせるように、行動制限をせず個別支援を実践し思いやりとやさしさの介護をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染から 地域とのつながりは離れていますが 以前のようにボランティアの方々の参加を今後はお願いしてゆきたいです	コロナ禍以前は行事の際にフラダンスや大正琴のボランティアを受け入れていた。近隣の保育園児との交流もあった。現在は散歩の際に近隣住民と挨拶をして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過からは地域とのかかわりは途切れていますが 徐々に町の会議などの参加をしてゆきたいと思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で 利用者様のサービスの向上を目指せるように意見を頂くようにしています	定期的に開催し、身体拘束について相談し話し合ったり、家族等の面会受け入れ時期などでも議論し意見を聞いている。毎回全員の発言があり、様々なことで話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場・福祉課の担当者様と連絡を取り合い 確認 相談などを行っています	入居者の報告をしたり、法改正時など分からない事や困りごとを相談している。町の介護関係者や医師等による、「町の介護方針に関係する会議」に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに取り組み 会議を行ったり ユニット内でカンファレンスを行っています	身体拘束排除のための指針を作成し、委員会を開催している。運営推進会議などでも常に身体拘束について話し合っている。事業所全体として意識が高く、必要に応じ職員間で話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無い様に施設内で研修を行い 話し合っています			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している人もいますが職員は十分に理解できていないことも有るので 学ぶ機会が有るといいと思います			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明をしたうえで 利用を開始して頂いています			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し 利用者や家族の方の意見を話せるようにしています また 家族来所時に普段の様子を伝えながら要望等を聞き 職員で話し合っています	重要事項説明書に事業所と第三者機関の相談や苦情相談窓口を明示している。家族等が来所した時や日頃の電話の際に聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の場で 意見交換を行い 問題点を話し合っています	定期的な会議は現在実施していないが、必要に応じて開催し職員などの意見を取り入れている。職員は気づいた事は何でも話している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に無理のないようなローテーションを組むように勤めています			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	課題を決めて話し合い 月例会で内部研修としています			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外来受診や会議の場で他職場の職員との交流はあります			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な思いに耳を傾け あんしんして生活が出来るように支援しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思う事 困っていることに耳を傾けて 不安が解消できるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がいま必要としている支援が出来るように よく話を聞いて 支援を見極めるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす事や一緒に作業をする事で支え合う関係が出来るように勤めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にして 連絡を取り合い時には家族の力を借りながら支えて行けるように努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染の流行により 馴染みの方の来所は遠慮して頂いていましたので 今後は馴染みの方との関係が途切れないように支援してゆきたいです	フェイスシートを作成して利用者の馴染みの関係を把握している。面会には家族等が来ている。家族等との電話対応を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が 屋内散歩等で他ユニットの方と交流をもつなど 楽しく会話をされています 食食用エプロンなど たためる方をお願いをして他の方の支えになれるよう支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は なくなつての事が多いので 相談や支援は有りません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々 思い思いの暮らし方が出来るように寄り添い 職員間で話し合っています	利用者の表情等で判断して支援している。日々の活動も無理強いすることなく利用者本位の支援をしている。利用者の思いを理解するために、色々と試して職員で話し合い表情等を参考に利用者が喜ぶような支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報や家族からの聞き取りで これまでの暮らしを把握できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌 申し送りノートを活用したり 朝礼時の申し送りで利用者様の心身状態 体調の変化の現状を把握するように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに モニタリングを行い 見直し サービス担当者会議を行い 本人・家族と必要な意見交換をし 現状にあった介護計画書を作成する事に努めています	計画作成担当者はそれぞれの関係者から意見を聞き作成している。介護計画は職員が見てどのような支援をしたら良いか具体的に記載されていて、家族等が見てもどのような支援を受けているか分かりやすい介護計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録をし 日々の様子やケアに向けて職員間で共有し介護計画の見直しに活かせるように努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりのニーズに対応してサービスが出来るように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町役場・警察・消防の協力を得ながら安全で安心して暮らせるように支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係り付け医は 本人と家族の希望により決めていきます 協力病院以外の受診は 家族の送迎となっています	協力医療機関では24時間緊急に対応して迎える車両を備えている。協力医療機関に事業所としては毎週行くが利用者は2週間毎の通院としている。訪問看護師は週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化のある方は 随時病院に連絡をし 看護師の指示に従っています 受診時は普段の様子を伝え 適切な医療を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーで 情報を共有しています看護師さんや医師と相談しながら早期の退院に向けて話合っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りはしていませんが 重度化したときには随時に家族・医師・看護師と話し合い今後の方針を決めています	看取りは実施しないとしているが「看取りに関する考え方」を指針に記載している。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。重度化等に関するマニュアルを作成するまでには至っていない。	重度化に関するマニュアルを作成して、研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えてのマニュアルは作成していますが 実際そうなった時に自分マニュアルどおりに行動出来るかは不安です 実際に学ぶ機会があると良いと思います		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っていますが 地域住民との協力体制は出来ておりません コロナも5類に「行こう」した事から今後は協力体制を作ってゆきたいと思えます	避難の際には居室入り口の氏名を裏返し二重チェックを防ぐ等、利用者の避難短縮になるよう工夫している。訓練後に反省会を行い課題について話し合い記録を残すまでには至っていない。	防災訓練後は実施状況に基づき反省会を開催して次回の訓練に生かす課題を検討し議事録の作成を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ等の誘導時は それぞれの利用者のプライドに配慮した声かけをするように意識しています	トイレ誘導や入浴時にはプライドや自尊心に配慮し、さりげない言葉で対応している。人権尊重や守秘義務について規程等を定めて、新人教育の際に研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で 利用者との信頼関係が出来るように努め 何でも話せる環境作りをして 自己決定が出来るように支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が 日々自身のペースで過ごせるように支援し 今日どうする？などと声かけをしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪のカットに出張理容師が来てくれていて自分の好みの髪型にされています また 自分の好きな衣類を身につける事が出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立に添って調理して 本人に力量に応じた調理方法を選び 食事が楽しみなものになる様支援しています 一緒にテーブルを囲む事はしていませんが下膳などは一緒に行っています	本部の献立を止めて、お弁当やウナギをテイクアウトして利用者の希望に合わせた行事食も提供している。家族などから提供された、さつま芋で焼き芋やホットケーキを作ったり、スイカ割りなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量を記録して 水分不足やカロリー不足の無い様に支援しています 食事の進まない方には おやつなどで対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています 自身の持てる力をお願いしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握して トイレでの排泄が出来るように支援しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取 運動をすすめて 便秘の無い様に支援しています 頑固な便秘は医師に相談しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間などは決まっていますが それぞれに入浴が楽しめるように支援しています ゆず湯や菖蒲湯は喜ばれていました	楽しい入浴となる様にしたり、菖蒲湯やゆず湯にして季節感を出している。竹水を利用して利用者の湿疹予防に努めている。湯の温度は利用者の好みに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動する事で 夜間入眠出来るように支援しています また 日々の中で 体調に応じて休む事が出来るようにも支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師指示 通りに服用できるように支援して 飲みにくそうにされている方には プリンなどに入れて服用支援しています 誤薬に無い様に注意し 副作用にも気を付けています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自身に出来ることはお願いしています 楽しみとする事もあるよう支援しています 塗り絵やDVDを見るなど支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はありませんが 家族の希望で出かけることは支援しています 今後は外出行事の企画をしてゆきたいです	コロナ禍のため病院受診の帰りにドライブや花見をしている。敷地内で外気浴や散歩、体操を行っている。だいだらぼうや六地藏、桜の花見に本部の車で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている人はいません 自己管理は困難かと思えます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援しています 手紙を書く方は居りません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下に季節の花を飾る事で 季節感を取り入れています また 暑すぎず まぶしくないように配慮して居心地良く過ごせるように工夫をしています	事業所全体が清潔に保たれ整理整頓がよく、感染症に考慮して空気清浄機や温湿度計が配置されている。壁面には利用者の作った季節ごとの作品が飾られている。小上がりの畳では利用者が洗濯物を畳んだり寛いだりしている。駐車場の周囲には椿の花が咲き、事業所内から田んぼや山を見渡せ季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人は好きなどころに過ごす事が出来るように支援しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の好きなように使用されていて使い慣れた物の持ち込みをお願いしています	入り口には手書きの表札がかけてある。管理者は火災につながるような物品と危険物以外は使い慣れた物を何でも持ち込むように説明している。居室は中庭に面して掃き出しの窓になっていて、外に出やすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や場所の間違いが無い様に目印を置くなどをしています 手すりの設置や段差のない事で 自立して過ごす事が出来るように工夫しています		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム 大洗

作成日 令和 6 年 2 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化等に関するマニュアルが出来ていない	重度化に関するマニュアルを作成する。	重度化に関するマニュアルを作成し、研修等を行うようにする。	6ヶ月
2	13	災害対策において訓練は行っているが訓練後の反省、課題についての記録を残し次回の訓練で生かしていない。	訓練時の課題を記録した次回の訓練に生かせる	次回の訓練時に、前回の訓練時の反省したところが克服できる様にする、訓練前の反省を記録し課題の検討を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。